

教育講演

学習が苦手な学習者へのアプローチ

鈴木克明

熊本大学教授システム学研究センター長・教授

インストラクショナルデザイン (ID) が教育の効果・効率・魅力を高めるために有効であるという考え方が、近年、医療界でも広がりを見せている。ID では、できる人は到達目標を示しておくだけで自力で学んでいくので、親切すぎる傾向にある教育者には、自律的な学びを邪魔せずに任せることを推奨している。その一方で、自力だけで学ぶことが困難な人には、学びに寄り添い、必要な援助をタイミングよく提供する「しくみ」を構築し、学ぶ意欲の持続を助ける働きかけが不可欠であると考えている。

ID は、教育を社会的選抜（できる者だけを選ぶプロセス）とは捉えずに、できるだけ多くの学習者ができるだけ多くの学びを達成できるように支援することを目指して、そのノウハウを蓄積してきた。人には得手不得手がそれぞれあり、何かをマスターするために必要な時間がそれぞれ異なるとすれば、教育者の主たる役割は、時間がかからない人よりも時間がかかってしまう人の学習プロセスをより手厚く支援することにある。しかし同時に、一定の要件を満たさずに医療の現場に出すこと、あるいは居続けさせることには危険が伴うので、厳格な出口管理や行動観察も不可欠である。

この教育講演では、これまで意識的に自らの学びを見つめるチャンスがなく過ごしてきたために、学び方を身につけていない人たちを「学習が苦手な学習者」の実態であると捉える（そう考えないと、どうせダメだ、が結論になってしまうので）。その上で、学習が苦手な人がまず身につけるべきことは、より多くの基礎知識ではなく、意識的な学び方・時間の使い方である、と主張する。ID のノウハウを自分の学びに活用し、自律的な学習者になってもらうことを支援する「しくみ」として考案したテキスト『学習設計マニュアル』や AHA も着目している「限界的練習」のノウハウを紹介し、これらをどう使うことで、学びを邪魔せずに、そして諦めずに見守れるか（それでもダメな場合をどう見極め、どのように諦めてもらうか）を考えたい。